

タヒチヌイトラベル発

2016年7月8日発信

イアオラナ！現地旅行社タヒチヌイトラベルが発信する、タヒチのプチ情報です。

皆様こんにちは。

今回もご好評のため、先週に引き続き Heiva 関連です。

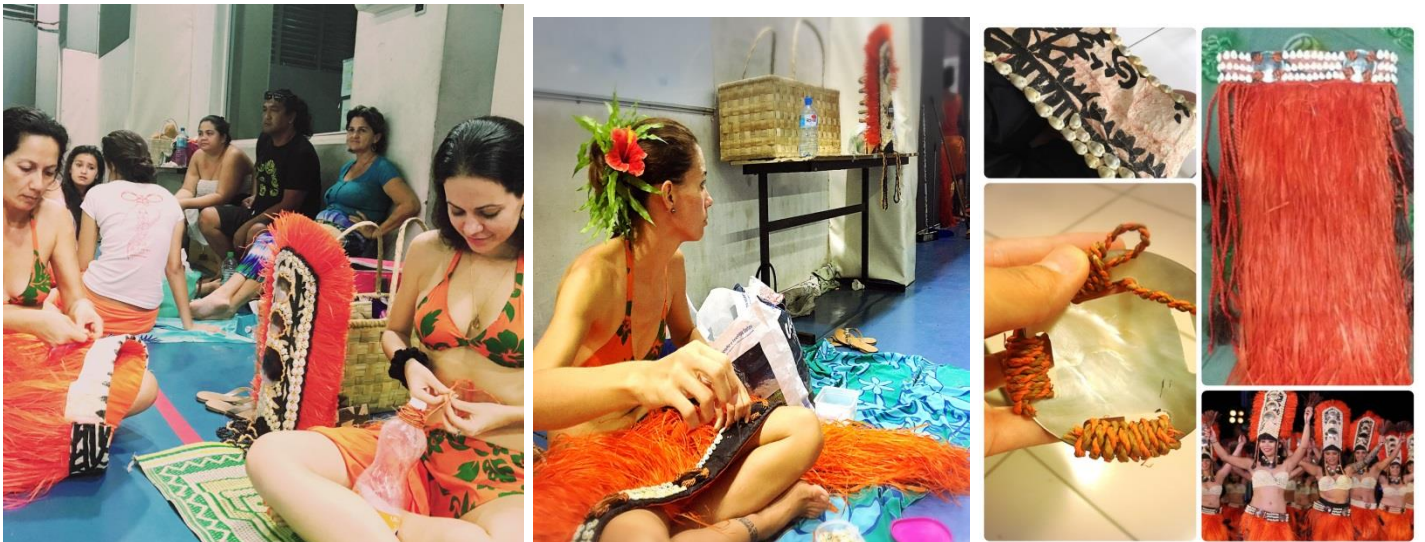
このたび、私事ではございますが7日に Hei Tahiti のグループで Heiva 出場を致しましたので、この日に至るまでの過程、Heiva 当日の雰囲気をご紹介します。

Hei Tahiti のグループは、1月末にダンサーオーディションが行われ、ここで選出されたダンサーはこれからの練習に参加でき、本番 Heiva に出場できる権利が得られます。

衣装は手作り。貝殻一つ一つ手縫い。妥協は許されません。裏の糸の見え方までみんな同じでなければなりません。

本番に近い日に衣装を着て練習する時も、少しでも待ち時間があればみんな衣装を作ります。

タヒチは材料が届くのがぎりぎりまで間際の間際まで作業をしないと間に合いません。



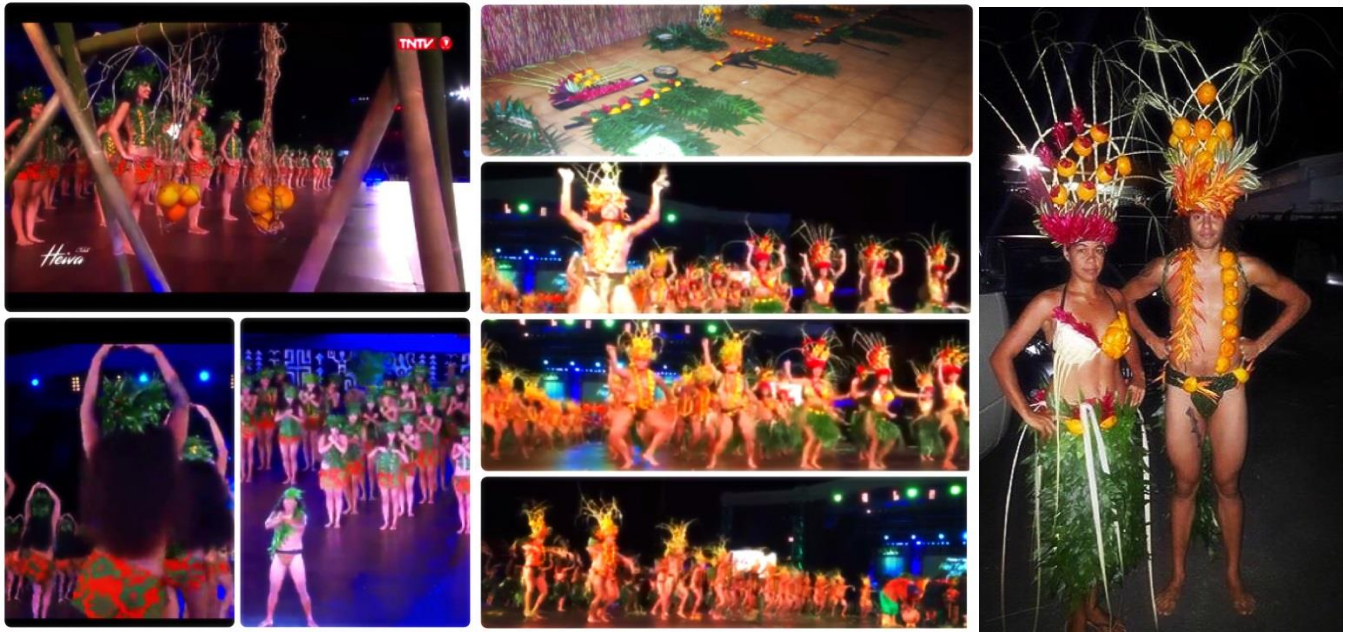
葉っぱを付けて踊るとどのように見えるか確認し、本番に備える。



生花の衣装は生なので、前日・前々日に用意をしなければなりません。

本番前々日は3時間睡眠をとり、前日は一睡もできず、当日の午後にやっと仕上げました。

その後すぐに、メイクをしに行ったところ、あまりにも疲労困憊のためメイクしている最中に寝落ちしてしまい、メイクアップアーティストに心配されるほど…



そのあと、集合時間まで約2時間程あったため少し休もうと思ったところに、衣装に付ける花を変更するようにとの連絡が入り急いで花をかき集め付け替えをし、まだ作り終えていない小物を編み終え、会場へと向かいました。

会場に着くと、同じグループのダンサーから初めて見る布を駐車場で渡され、あのダンスを踊るときはパレオの上にこれを巻いて出ることとの伝達が指導者のティアレから入ったと布を受け取る。詳細は彼女から説明があるとの事でしたが、説明は無く、本番。

この布を巻く時が来た際に下のパレオを脱ぐダンサー。パレオを着たまま布を巻きつけていたダンサーが「下のパレオ脱ぐの!？」と彼女に質問すると「脱ぐ!」との答え。この時の会話と行動約2秒。そのあとすぐに壇上に上がります。

着替えている途中にネックレスに付いている黒蝶貝の母貝を踏んでしまい、真っ二つに割ってしまうというハプニング。衣装担当の方に接着剤を持っていないか聞いたが、もちろん持っていません。

その時、友達が別の衣装で「ここ両面テープをつけてるのー」と話していたのを思い出し、彼女に聞いたら両面テープとはさみを持ってきているとのことだったので、急いでテープを切って付けて貝を補強する。

最後の衣装ではモレ(スカート部分)と頭の飾り(帽子のような)が踊っている途中に落ちそうになるというハプニングが起こる。片方の手で帽子部分を支え、片方の手でスカート部分を支えたが、これではどちらも落ちてしまう。

一瞬にして、帽子を諦めることにし、スカート部分を瞬時に直す。

(衣装に手を触れてしまうと減点になるため、この場合は落とす方が得点的には良い。事実、過去にブラが取れた方や、スカートが取れてそのまま下着で踊り続けた方たちもいるそうです)

この時の私の気持ちは、自身の臀部が見えてしまったという恥ずかしさよりも、衣装をぎりぎりまで手伝ってくれたみんなの想い、これまで一緒に何百時間と練習し頑張ってきたチームのみんな、何よりこの日のためにかなりの時間と労力を費やしてきた指導者ティアレに対し、本当に申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。



ティアレはこのたった1日の公演のために、1年半という時間をかけ構想を練り、ダンサーたちを指導し、声を哽らしながら先頭に立ち、みんなをぎりぎりまで引っ張ってきました。

衣装担当者は全ての衣装のベースを約150人分(頭、胸、腰部分の必要なものをそれぞれ必要な曲分)製作
ダンサーの家族や友人たちは夜な夜なダンサーと一緒に衣装づくりの手伝いをしてくれました

こんなにたくさんの方々の思いや、力や労力、汗と涙が詰まった Heiva を観覧する機会があれば、ぜひ会場で体感してみてください！

下記、URL でもこの日の公演をご覧いただけます。

<http://www.tntv replay.pf/Hei-Tahiti-Le-resume v6774.html>

